

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 看護学研究科 看護学専攻（D）

【教育課程等】

1. 社会人の受入れについて、長期履修制度を導入し働きながら学べる環境をつくとあるが、本制度の具体的な運用方法が示されていないため、明確に説明すること。（是正事項）…………… 1

2. 「生体環境科学特講」の科目概要について、「科学的エビデンスの構築、看護介入の開発、理論開発の方法論を習得する」とあるが、各回の学習によりどのようにこれらの内容を習得するのか不明確なため、この点が明確となるようシラバスの科目概要の記載を改めること。（是正事項）…………… 7

3. 学生は研究結果について国内外で適宜学会発表を行うとあるが、博士学位審査に関する細則（案）には学会発表の記載がなく、博士学位論文審査における学会発表の位置付けが不明確なため、学会発表は論文審査に際して必要であるのかを含め、学会発表の位置付けを明確にすること。（改善事項）…10

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

1. 社会人の受入れについて、長期履修制度を導入し働きながら学べる環境をつくとあるが、本制度の具体的な運用方法が示されていないため、明確に説明すること。

(対応)

設置の趣旨等を記載した書類の資料として新たに資料 14 を追加し、長期履修制度の具体的な運用方法について示した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (23 ページ)

新	旧
<p>社会人として働きながら学べる環境を作るため、長期履修制度を導入する。 (資料 14 : 長期履修制度)</p> <p>制度の概要は、職業を有している者又は長期履修が必要となる相当の理由を有する者を対象とし、期間は在学年限の範囲内で、1年単位で定める。また授業料は標準修業年限分の授業料に相当する額を長期履修期間に応じて分割納付する。</p>	<p>そのため、長期履修制度を導入し、社会人として働きながら学べる環境を作る必要がある。</p>

静岡県立大学 大学院長期履修制度

1. 長期履修制度とは

長期履修制度とは、学生が、職業を有している等の事情により標準修業年限（例えば、博士前期課程 2 年、博士後期課程 3 年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度。

2. 対象者

職業を有している者又は長期履修が必要となる相当の理由を有する者を対象とする。

- 「職業を有している者」とは、正規に雇用されている者に限らないが、主として当該収入により生計を維持していることを要件とする。
- 「長期履修が必要となる相当の理由」とは、育児や介護への従事など履修、研究の時間が制限される事情があることを要件とする。

3. 長期履修期間

在学年限（例えば、博士前期課程 4 年、博士後期課程 6 年）の範囲内で、1 年単位で長期履修期間を定めることができる。

- 休学の期間は、上記期間に含まれない。
- 長期履修の適用の有無にかかわらず、在学年限内に修了することができない場合には除籍の対象となる。

4. 授業料

標準修業年限分の授業料に相当する額を、長期履修期間に応じて分割納付していただく。具体的な納入額、納入時期等については、長期履修の許可時に当該学生に通知する。

長期履修による授業料年額＝通常の授業料年額×標準修業年限÷長期履修許可年限

【例】博士前期課程について、3 年間の長期履修制度の許可を受けた場合

区分	各年度の授業料納付額			修了までの授業料総額
一般学生 (標準修業年限 2 年の場合)	1 年目 535,800 円	2 年目 535,800 円		1,071,600 円
長期履修学生 (履修期間を 3 年とした場合)	1 年目 357,200 円	2 年目 357,200 円	3 年目 357,200 円	

静岡県立大学 大学院長期履修制度

- ※ 上記は令和元年度の授業料年額による例。
- ※ 長期履修期間中に授業料が改定された場合には、改定後の額で再計算する。
 - 長期履修学生については、授業料の免除、分割納付及び納期変更の制度は適用されない。
 - 除籍の対象となる場合を除き、長期履修期間を終了してもなお修了できずに在学する場合の授業料の額は、通常の授業料の額と同額となる。

5. 申請方法

申請に当たっては、入学予定研究科の指導担当教員に相談し、承諾を得たうえで下記の書類を学生室に提出する。

- 長期履修申請書（様式第1号）
- 長期履修計画書（様式任意）
- 長期履修が必要であることを証明する書類（在職証明書等）

長期履修の申請があった場合には、当該研究科による審査を経て、学長が許可する。

ただし、在学生のうち最終年次（例えば、博士前期課程2年目、博士後期課程3年目）に在学する者は申請することができない。

6. 長期履修期間の変更

長期履修期間中に、就業環境の変化等により必要が生じた場合には、1回に限り長期履修期間の変更（短縮又は延長）を申請することができる。

- 長期履修期間変更申請書（様式第2号）
- 長期履修計画書（様式任意）
- 長期履修が必要であることを証明する書類（在職証明書等）

この場合の授業料は、在学期間と長期履修期間に応じ、修了までに「通常の授業料年額×標準修業年限」の合計額が納入されるよう再計算される。

7. 提出期限

(1) 令和2年度入学予定者の「長期履修申請書」提出期限

- 一次募集合格者 令和 2年 ●月 ●日 (●)

静岡県立大学 大学院長期履修制度

- 二次募集合格者 令和 2年 ●月 ●日 (●)

(2) 在学生の「長期履修申請書」および「長期履修期間変更申請書」提出期限

- 令和 2年 ●月 ●日 (●)

8. その他

・長期履修期間中の教育課程等については各研究科において定めることとなっており、学期毎の修得単位数の上限が設定される場合がある。

・奨学金については、長期履修制度による特段の措置はない。標準修業年限に相当する期間（例えば、博士前期課程2年、博士後期課程3年）の奨学金の貸与を受けた後に、修了する学生と同様の手続を行っていただくが、その後の在学期間中は、在学届等所定の書類を提出することにより返還が猶予される。

・長期履修制度は、単位の修得状況や学位論文の審査過程により修了が延期となる（いわゆる留年）者を救済する制度ではない。また、療養、出産、海外留学等一定の期間履修することができない場合には、長期履修制度ではなく休学許可の対象となる。

長期履修申請書

年 月 日

静岡県立大学長 様

研究科 _____ 課程 _____

学籍番号 (受験番号) _____

氏名 _____

下記のとおり長期にわたる教育課程の履修を申請します。

記

入学年月日	年 月 日	
長期履修 申請期間	年 月 日から 年 月 日まで (年間)	
現住所	〒 _____ 電話番号 _____	
勤務先	名称・ 職種等	_____
	所在地	〒 _____ 電話番号 _____
理 由	_____	
履修計画	_____	
指導教員の所見	_____	

署名 _____

長期履修期間変更申請書

年 月 日

静岡県立大学長 様

研究科 _____ 課程

学籍番号

氏名

下記のとおり長期履修期間の変更を申請します。

記

入学年月日	年 月 日
許可済の履修期間	年 月 日から 年 月 日まで (年間)
変更後の履修期間	年 月 日から 年 月 日まで (年間)
変更の理由	
変更後の履修計画	
指導教員の所見	署名

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

2. 「生体環境科学特講」の科目概要について、「科学的エビデンスの構築、看護介入の開発、理論開発の方法論を習得する」とあるが、各回の学習によりどのようにこれらの内容を習得するのか不明確なため、この点が明確となるようシラバスの科目概要の記載を改めること。

(対応)

看護学専攻博士後期課程の教育課程において、指摘を受けた「生体環境科学特講」の科目概要における「科学的エビデンスの構築、看護介入の開発、理論開発の方法論を習得する」については、シラバスの授業計画において、各回の学習の内容を具体化し、これらの内容の習得を目指した授業の展開、実施について、明確にする。

科学的エビデンスの構築に関しては、授業第4回から第9回において、環境と生体反応に関する研究知見からエビデンスがどのように構築されているかを詳述する。

看護介入の開発、理論開発の方法論については、第10回から第13回において、健康を護るための医療的介入の分析や健康阻害因子と予防的介入に関する最新の状況を概観したうえで、第14回及び第15回において、学生による課題設定と看護介入の提案及びその理論的背景について討議することで方法論を検証できる能力を習得することを目指す。

(新旧対照表) シラバス (到達目標、授業展開、テキスト、参考書) (2 ページ)

新	旧
P8 参照	P9 参照

科目名	生体環境科学特講		
必修区分	選択		
開講時期	1年前期・2年前期	単位数	2単位
科目責任者	金澤寛明		
担当教員	井上健一郎、荒井孝子		
科目概要	多様性に富むケアの受け手に対する看護支援を前提におき、自らの研究課題を踏まえ、生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、研究知見を活用した科学的エビデンスの構築、看護介入の開発、理論開発の方法論を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国における社会環境医学の現状と健康の諸理論と概念について討議できる。 2. 環境がヒトの健康に及ぼす影響とその研究について討議できる。 3. 健康を護るために必要な看護介入の開発・提案や理論開発のための方法論を検証できる。 		
授業展開	<p>第1回：環境に適応する生体に関する諸理論とその概念（金澤） 第2回：大気環境とアレルギーに関する諸理論とその概念（井上） 第3回：生活習慣と環境に関する諸理論とその概念（荒井） 第4回：環境と生体反応に関する解剖・組織学的エビデンス1（金澤） 第5回：環境と生体反応に関する解剖・組織学的エビデンス2（金澤） 第6回：環境と生体反応に関する臨床研究のエビデンス1（井上） 第7回：環境と生体反応に関する臨床研究のエビデンス2（井上） 第8回：環境と生体反応に関するコホート研究のエビデンス1（荒井） 第9回：環境と生体反応に関するコホート研究のエビデンス2（荒井） 第10回：健康を護るために必要な医療的介入の分析1（金澤） 第11回：健康を護るために必要な医療的介入の分析2（井上） 第12回：健康阻害因子とその予防的介入1（荒井） 第13回：健康阻害因子とその予防的介入2（荒井） 第14回：健康問題に関する看護介入の提案と理論的背景の検証・討議1（荒井・金澤・井上） 第15回：健康問題に関する看護介入の提案と理論的背景の検証・討議2（荒井・金澤・井上）</p>		
評価方法	課題レポート(30%)、討議(30%)、プレゼンテーション(40%)		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Susan Standring. (2015). Gray's Anatomy: The Anatomical Basis of Clinical Practice, 41e, Elsevier. ・ 田中充, 上杉哲郎ほか. (2019). 環境アセスメント学入門, 恒星社厚生閣. ・ 東京大学医学部健康総合学科(編集). (2016). 社会を変える健康のサイエンス: 健康総合科学への21の扉, 東京大学出版会. 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 饒村 曜. (2013). 最新図解PM2.5と大気汚染がわかる本, オーム社. ・ 岸玲子(監修), 小泉昭雄, 馬場園明, 今中雄一, 武林亨(編集). (2018). NEW予防医学・公衆衛生学(改訂第4版), Nankodo's essential well-advan, 南江堂. 		
備考	・ 事前の準備を丁寧に行い参加することを期待します。		

科目名	生体環境科学特講		
必修区分	選択		
開講時期	1年前期・2年前期	単位数	2単位
科目責任者	金澤寛明		
担当教員	井上健一郎、荒井孝子		
科目概要	多様性に富むケアの受け手への看護支援を前提におき、自らの研究課題を踏まえ、生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、研究知見を活用した科学的エビデンスの構築、看護介入の開発、理論開発の方法論を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の内外の環境変化を感知する感覚器の構造と機能を理解する。 2. 環境がヒトの健康に影響を及ぼす社会的要因、生態系および疾病への影響をもたらしているかを理解する。 3. 健康を護るための課題について理解する。 		
授業展開	<p>下記の課題に関して、履修者自らが興味を持ったテーマを設定し、著作もしくは論文などの文献を用いて、講義・討論を実施する。</p> <p>第1回:ヒトの感覚器の構造と機能1(視覚)(金澤) 第2回:ヒトの感覚器の構造と機能2(嗅覚)(金澤) 第3回:ヒトの感覚器の構造と機能3(味覚)(金澤) 第4回:ヒトの感覚器の構造と機能4(内臓知覚)(金澤) 第5回:環境変化に対応する生体の反応(金澤) 第6回:大気環境と生体影響1(微粒子の呼吸器への影響)(井上) 第7回:大気環境と生体影響2(微粒子の循環器への影響)(井上) 第8回:環境ホルモンと生体影響(井上) 第9回:発がん物質と生体影響(井上) 第10回:環境リスクから健康を護るための対策(井上) 第11回:大気環境と生体影響における看護の視点1(荒井) 第12回:大気環境と生体影響における看護の視点2(荒井) 第13回:健康診断における健康阻害因子の分析1(高血圧)(荒井) 第14回:健康診断における健康阻害因子の分析2(動脈硬化)(荒井) 第15回:健康診断における健康阻害因子の分析3(大脳白質)(荒井)</p>		
評価方法	課題レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、討議における応答(40%)から総合的に評価する。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Gray's Anatomy: The Anatomical Basis of Clinical Practice ・大気汚染対策の基礎知識. 環境保全対策研究会編集, 産業環境管理協会; 二訂版, 2005. 		
参考書	・最新図解PM2.5と大気汚染がわかる本. 饒村 曜, オーム社, 2013		
備考	・事前の準備を丁寧に行い参加することを期待します。		

(改善事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

3. 学生は研究結果について国内外で適宜学会発表を行うとあるが、博士学位審査に関する細則(案)には学会発表の記載がなく、博士学位論文審査における学会発表の位置付けが不明確なため、学会発表は論文審査に際して必要であるのかを含め、学会発表の位置付けを明確にすること。

(対応)

学会発表については推奨するものの、論文審査に際して必要ではなく、学会が主催する学術集会での発表を推奨する旨、明記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15 ページ)

新	旧
2年次においては、指導教員、副指導教員の指導のもと、立案した研究計画に沿って研究を実施する。並行して学会が主催する学術集会での発表を推奨する。	2年次においては、指導教員、副指導教員の指導のもと、立案した研究計画に沿って研究を実施する。並行して適宜、国内外において学会発表を行う。

新	旧
3年次においては、指導教員、副指導教員の指導のもと、継続して研究を実施する。2年次に引き続き学会が主催する学術集会での発表を推奨する。	3年次においては、指導教員、副指導教員の指導のもと、継続して研究を実施する。2年次に引き続き適宜、国内外において学会発表を行う。